



青森県立大間高等学校 生徒指導部通信

2024 年 (令和 6 年)

6 月 7 日 (金)

文責：田中大基

2024 vol.3

▼Contents

- 1 高総体報告
- 2 部活動 3 年間を振り返って
- 3 順道制勝

1 高総体報告



5 月 31 日～6 月 2 日、県内各地で**高校総体**が開催されました。各部活動とも日頃の練習の成果を発揮し、果敢なるプレーが繰り広げられました。**陸上競技部男子砲丸投げで伊藤真樹君が東北大会出場**を獲得しました。

今後は硬式野球部甲子園予選、吹奏楽部コンクール、また各部活動新人戦に向けてがんばりましょう。

2 部活動 3 年間を振り返って

私は部活の活動内容が変わったタイミングでテニス部に入部しました。

約 1 年間のブランクがある中で入部し、部員が少なく試合に出るのがやっとの人数で不安でしたが、この 1 年間はたくさんの試合に出ることが出来ました。

最後の高校総体は今まででとてもいい経験が出来たと思います。これまでの試合で 1 勝も出来なくて顧問の先生方には申し訳ない気持ちですが、一緒に活動してきた部員や顧問の先生方にはすごく感謝しています。みんなのおかげで最後まで楽しく活動出来ました。人数は少なくなるけど最後まで頑張りたいと思います。

部活動で得たことをこれからに活かせるようにしたいと思います。

ソフトテニス部部长 山田 亜衣

人数が足りず試合に出場することができない時期があり、何のためにバレーをやっているのかわなくなった時もありました。ですが、今の 1, 2 年生が入ってきて折れかけていた私の心を救ってくれました。それからはバレーがすごく楽しくて毎日が私の思い出です。辛い時もチームで支え合い励まし合い、最高のメンバーに恵まれたと思っています。高校総体では負けてしまいましたが、私の最後の試合を今のメンバーで出ることができてとても幸せでした。これからは新チームでの活動になると思いますが、心配はしていません。短い期間でしたが、たくさんの思い出をありがとうございました!!

1, 2 年の皆さんこれからもずっと応援しています!!部活動で得たことをこれからに活かせるようにしたいと思います。**バレーボール部部长 平社 保乃香**

3年間という、長いようで短い間でしたが、良くも悪くも思い出がたくさんできた部活動でした。仲間がたくさん増えたり減ったり、試合に出られなかったり。

試合では、結果に繋がらないこともたくさんありましたが、それぞれが楽しい部活動を送ることができたと思います。

辛くても一緒にプレーしてくれてくれた仲間には感謝でいっぱいです。応援してくださったみなさん、ありがとうございました。続けることに意味があると思います。1、2年生のみなさんこれからも頑張ってください。

バスケットボール部部長 傳法 絢心

3年生は最後の高校総体という中で今までやってきたもの全て出し切ることができたと思います。振り返ってみれば1年生の頃、人数が少ない中でお互いに高め合って練習していたのを思い出しました。努力してもなかなか結果が出ず苦しむ日々がありました。ですが仲間と声を掛け合いここまでやってこれました。結果を出すのは自分ですがきっと仲間がいないとここまでやってこれなかったと心から実感しました。高校総体では、1、2年生のみんなも持っている力を全て出しきれたと思います。1年生は焦らず真剣に練習していけばいいと思います。2年生は引退がすぐくるので後悔しないように練習していつてほしいと思います。3年間あっという間に終わってしまうと実感させられかなり寂しいものです。これからの進路活動頑張っていきます。

陸上競技部部長 伊藤 真樹

3 順道制勝¹

明治時代、現在の筑波大学の前身となる東京高等師範学校校長を務めた日本体育の父、嘉納治五郎は「順道制勝」の精神を唱えています。

「勝つにしても道に順って勝ち、負けるにしても道に順って負けなければならぬ。負けても道に順って負ければ、道に背いて勝ったより価値があるのである。」

結果を得ようと思うならば、そのつもりで工夫や練習もしなければなりません。

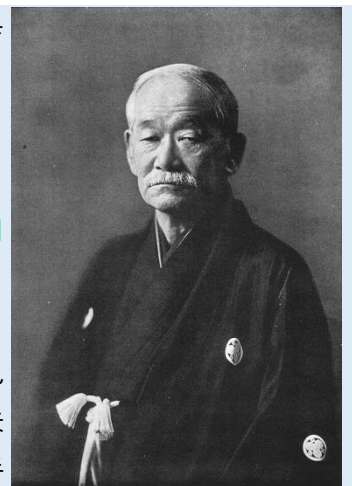
対抗試合の際、逃げてばかりいて、相互に技をほどこす機会が得られない場合があります。体育の目的から考えて価値がないだけではなく、面白味もなく、双方工夫をこらす機会も多く生じてきません。一方からは卑怯者とさげすむようになり、相手に対し悪感情を生ずることもあります。

対抗試合の主たる目的は、練習によって磨き上げた自分たちの精神や態度を、相手と比較して、もし及ばない所があるならば相手に学ぼう、自分たちが優っているならば相手を導こうとする点ではないでしょうか。

なぜならば、私たちは今こそ学校を異にしていますが、いつか社会に立つとともに働くことになる仲間です。互いに親睦し、いつか社会に立つ時は、何校出身というよう狭い考えで隔たりが出来ないように心がけましょう。

ただ「勝つためには何でもやる」「面白いからやっている」「負けるから嫌だ」が部活動ではありません。勝つには勝つ理由があり、負けるには負ける理由があります。対抗試合からそれを学び、練習に生かす。もちろん、正しい道、正しいルールに則ってです。

正しい道に順って得た勝利こそ価値があります。疑問や不満があるかもしれませんが。だからといって、それに反発して成し得た結果に何の意味があるのでしょうか。ルールを守って出した結果にこそ、皆さんが社会に出る上で必要なことではないでしょうか。



嘉納治五郎

¹ 順道制勝とは - 講道館 柔道 (kdkjudo.org)